

家族の歌

てのひらプロジェクト 第三回公演

家族とは時間の記憶を共有する者の謂いである

〈河野 裕子 永田 和宏 永田 淳 永田 紅〉リレーエッセイ『家族の歌』より

母、妻、歌人 河野裕子

父、夫、細胞生物学者、歌人 永田和宏

息子、出版社主宰、歌人 永田淳

娘、生化学研究者、歌人 永田紅

家族全員歌人の永田家。

母、河野裕子を中心に

共有した時間の流れは

言葉となって紡がれた。

その言の葉を

声を通して瞬かす朗読劇。

カタチあるものを失った時

残ったものは

記憶と絆 そして言葉

構成・演出 山下晃彦

主催・てのひらプロジェクト
後援・塔短歌会

2015年9月22日火・23日水

マチネ 開場11:30 開演12:00
ジュルネ 開場14:30 開演15:00
ソワレ 開場17:30 開演18:00

京都・梨木神社 能舞台

前売り 3,000円 当日 3,200円

お申し込み・お問い合わせ

070-1304-8816 (てのひらプロジェクト)

メール kazokunouta@tenohiraproject.com

ホームページ tenohiraproject.com

てのひらプロジェクト 第三回公演

家族の歌

「…家族とは何なのだろうと考えるとき、私には家族とは時間の記憶を共有する者の謂いであるという想いが強い。「あの時の…」と言えば、すぐに誰かがそのへ時を取り出して相槌を打つ。それが家族なのかもしれない。家族の記憶の中では、時間はいつまでも、そしていつでも取り出すことができる。」

へ河野 裕子 永田和宏 永田淳 永田紅 著
リレーエッセイ『家族の歌』より
(単行本・産経新聞出版/文庫本・文藝春秋)

産経新聞の夕刊(大阪本社発行)に「お茶にしようか」として連載された、歌人・河野裕子一家のリレーエッセイ『家族の歌』を元に構成された朗読劇。
父と息子の釣りの想い出、コスモス畑に佇む母、夕暮れのキャッチボール、娘の結婚、最後の言葉…。乳がんが再発した妻・河野裕子と家族が過ごしたへあの時々の記。言葉で紡いだ家族の記憶が、響きとなって蘇る。

構成・演出 山下晃彦

出演 青山義典 大川久美子 唐澤里美 三五伊久美 杉山快俊
坪川美緒 松岡秀平 三浦芙美 山下晃彦(五十音順)
歌手 松本泰子
照明協力 末永秀敏 イラスト 小林有希子
製作 てのひらプロジェクト

てのひらプロジェクトとは?

てのひらプロジェクトは、東日本大震災が起きた3月11日を起点とし、舞台から被災地の支援ができないだろうかと考え、その趣旨に賛同したメンバーが集まって結成された団体です。私たちの舞台作品を結び目として、被災地に祈りを捧げたい。演劇を通して復興を支援し続けたいとの願いから、毎年3月11日に公演を行っています。昨年手につく思い出が直筆で綴られた『手をめぐる四百字』(文化出版局)を上演しました。そして今年は、歌人一家によって紡がれたリレーエッセー『家族の歌』(単行本・産経新聞出版/文庫本・文藝春秋)をお届けします。記憶を共有できる存在の大切さと大きさを、<家族>を通して感じていただけたら幸いです。

京都・梨木神社

〒602-0844 京都市上京区寺町通広小路上ル
TEL: 075-211-0885 FAX: 075-257-2624
ホームページ: <http://www.nashinoki.jp>

2015年9月22日火・23日水

マチネ 開場11:30 開演12:00
ジュルネ 開場14:30 開演15:00
ソワレ 開場17:30 開演18:00

京都・梨木神社 能舞台

前売り 3,000円 当日 3,200円

お申し込み・お問い合わせ

070-1304-8816 (てのひらプロジェクト)
メール kazokunouta@tenohiraproject.com
ホームページ tenohiraproject.com



<バスでお越しの方>
JR京都駅正面口 市バスA2乗り場から、4系統・17系統・205系統で約20分
「府立医大病院前」下車、徒歩約3分